

我が国の伝統音楽研修講座の様子を紹介します

8月21日(月)と8月28日(月)に、謡をはじめ箏、三味線、尺八などに取り組みました。初めて触れる楽器に四苦八苦していましたが、最後はみんなで「さくら」を演奏するなど、充実した2日間になりました。

講義・実技「我が国の伝統的な歌唱」



▲「羽衣」の謡と舞いを鑑賞する受講者

東京藝術大学音楽学部同声会茨城支部の後田洋子先生から、謡曲「羽衣」を一緒に謡うことを通して、能の世界観や声の出し方、抑揚の付け方などを教えていただきました。受講者からは、「貴重な体験となりました。お囃子と謡、そして舞との一体感が感じられ、勉強になりました。」「聴いているのと実際にやってみるとではこんなに違うものかと実感しました。お囃子の音やかかけ声に励まされました。」等の感想が寄せられました。

実技「和楽器（箏、三味線、尺八）の奏法」



▲選択した箏、三味線、尺八のグループに分かれ、練習に取り組んでいる受講者の様子

〔箏〕

樋口美佐子先生から箏の基本的な奏法を教えてくださいました。「さくら」では、グループで変奏曲に取り組み、受講者のアイデアが盛り込まれた演奏を創りあげていきました。

〔三味線〕

大須賀佳緒里先生から、調弦や三味線の演奏の仕方について教えてくださいました。三味線の演奏を通して、伝統文化を引き継いでいくことの大切さを教えてくださいました。

〔尺八〕

樋口景子先生から、構え方や息の流し方などを教えてくださいました。音を変えるための息の出し方や指穴を開ける微妙な調整など、練習で受講者はその感覚を掴んでいきました。

受講者からは、「『六段の調べ』はできないと思っていたので、初めのところだけでも弾けるようになり、自信ができました。」「音を出す難しさもありましたが、楽しく取り組むことができました。他の楽器にも挑戦してみたいです。」「先生方の生演奏を聴き、伝統音楽のよさを改めて感じました。このよさを子どもたちにも伝えていきたいです。」等の感想が寄せられました。